

現代アフリカ地域研究センター開所式挨拶（要約版）

センター長 武内進一

本日は本センターの開所式にご出席くださり、心より御礼申し上げます。

ご挨拶の機会を利用し、「東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター」の名称に込められたキーワードに触れつつ、本センター設立の意義について申し上げたく存じます。

本センターは、日本で初めて「現代アフリカ」を掲げて大学に設置された機関です。現代世界におけるアフリカの政治経済的重要性については、改めて述べるまでもありません。日本は近年、アフリカ開発会議（TICAD）をはじめとする様々な努力を通じて、アフリカとの関係強化に官民を挙げて取り組んできました。アフリカ諸国との二国間関係の強化に一層の努力が払われるべきことは当然ですが、日本にとってのアフリカの重要性は二国間関係に留まりません。開発、平和構築、気候変動といったアフリカをめぐる諸課題はいずれもグローバルガバナンスの重要なイシューであり、それへの対応は国際協調主義を掲げる日本にとっての重要な試金石です。こうした重要性を持つ現代アフリカの理解に資する活動は、本センターが担うべき第一の役割です。

現代アフリカのもう一つの特徴は、その社会が急速に変化していること、そしてそこに多様なアクターが関与していることです。アカデミアに加え、政府関係機関やNGO、民間企業やメディアなど、現代アフリカに関わる様々なアクターと積極的に繋がり、相互に裨益するネットワークを構築することは、本センターの重要な役割だと認識しています。

センターの名前にある「地域研究」もキーワードです。開発にせよ、平和構築にせよ、気候変動にせよ、現代アフリカが直面する諸課題に取り組むためには、複数の学問分野にわたる知識が必要です。私たちは、そうした地域研究の取り組みを進めつつ、多様なアクターによる相互裨益的なネットワークのハブとして機能することを目指します。

本センターは、東京外国語大学に設置されました。本学にはアジア・アフリカ言語文化研究所や国際社会学部アフリカ地域をはじめとしたアフリカ研究の厚い蓄積があり、日本屈指のアフリカ研究者の集積地です。加えて、本学は「翻訳すること」に強い専門性を持っています。翻訳とは、単にある言葉を他の言語で置き換えることではなく、その言葉が発せられたコンテキストを理解し、それを他の言語のコンテキストで説明することです。文化や社会、政治や経済、そして歴史を学ぶことが、コンテキストの理解に不可欠です。これは地域研究の営みそのものですが、東京外国語大学は地域研究という概念が浸透するはるか以前からそれを実践してきました。そこに現代アフリカ地域研究センターが設置されるのは、きわめて自然なことなのです。

現代アフリカ地域研究センターの当面の目標として、3点挙げます。第1に、アフリカに関わる多様な人々をつなぐネットワークを充実させること。第2に、質の高いアフリカ研究を実施すること。そして、第3に、アフリカを愛し、理解するアフリカニストを育てることです。これらを実現させるために、皆様のご指導、ご鞭撻をお願いいたたく存じます。